

1 領域で貫く数学的な見方・考え方

データの分布に着目し、その傾向を読み取り、批判的に考察すること

2 「データの活用」領域における資質・能力の系統

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
小学校	データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力。	身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり考察したりする力。	身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力。	目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力。	目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力。	身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力。

	第1学年	第2学年	第3学年	高等学校
中学校	データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力。	複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力。	標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力。	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確定な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力。

3 単元目標

4 生徒の実態と指導観

<p>データの分布および不確定な事象の起こりやすさについて、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができる。</p> <p><b>【知識及び技能】</b></p> <p>(1) データの分布</p> <p>(ア) ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解すること</p> <p>(イ) コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理すること</p> <p>(2) 不確定な事象の起こりやすさ</p> <p>(ア) 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解すること</p> <p><b>【思考力、判断力、表現力等】</b></p> <p>(1) データの分布</p> <p>(ア) 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること</p> <p>(2) 不確定な事象の起こりやすさ</p> <p>(ア) 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現すること</p> <p><b>【学びに向かう力、人間性等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度</li> <li>問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度</li> <li>多面的に捉え考えようとする態度</li> </ul>	<p>本学級（1年4組）の生徒は、4月の学力調査において、いろいろなグラフの読み取りに課題が見られた。そこで、比例・反比例の単元や本単元においては、データをグラフ化することのよさや、必要な情報を得るためには、どの資料（グラフ）が適しているかや、読み取ることの重要性などを意識させた授業づくりを大切にしていこう。</p> <p>小学校算数科では、統計的な問題解決の方法を知るとともに、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ及び帯グラフを学習し、度数分布を表やグラフに表したり、データの平均や散らばりを調べるなどの活動を通して、統計的に考察したり表現したりしてきている。</p> <p>中学校第1学年では、これらの学習の上で、データを収集、整理する場合には、目的に応じた適切で能率的なデータの集め方や、合理的な処理の仕方が重要であることを理解できるようにする。さらに、ヒストグラムや相対度数などについて理解し、それらを用いてデータの傾向を捉え説明することを通して、データの傾向を読み取り、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだすなど、批判的に考察し判断することができるようにする。具体的には、データに基づいて問題を解決する過程において、データの収集の仕方は適切か、どの代表値が根拠としてふさわしいか、分布の形に着目しているか、傾向を読み取りやすいグラフで表しているか、グラフの目盛りなどを加工して過度に誇張していないか、分析した結果から得られる結論が妥当かなどについて検討させ、その過程においてよりよい解決や結論を見いだそうとする態度を養いたい。</p> <p>また、不確定な事象の起こりやすさについても、これまでは確定した事象を表すのに用いられてきた数が、不確定な事象の起こりやすさの程度を表すためにも用いられることを知り、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。</p> <p>本単元では、まず大縄跳びの2つの並び方の記録を分析し、どちらの並び方にするとより結果が出せるか、過去のデータを根拠として考察し判断する活動を通して、ヒストグラムや相対度数を用いてデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができるようにしていきたい。次に、ペットボトルキャップを投げたときの起こりやすさの傾向を調べることを通して、実際に多数回の試行をするなどして、ある事柄の起こる相対度数が一定の値に近づくことを実感を伴って理解できるようにしていく。そして、本時では、学校の売店で新入生用の上履きを各サイズどのくらいの数を入荷したらよいかについて考える。新入生が購入した上履きのサイズの状況はほぼ毎年同じ傾向が見られることから、過去のデータから起こりやすさの傾向を予測するために、相対度数を確率とみなしていく。その際、「必ず～になる」とは言い切れない事柄についても、数を用いて考察したり判断したりすることができることを知り、数学と日常生活や社会との関係を実感できるようにしていきたい。</p>
--	---

5 単元の評価規準

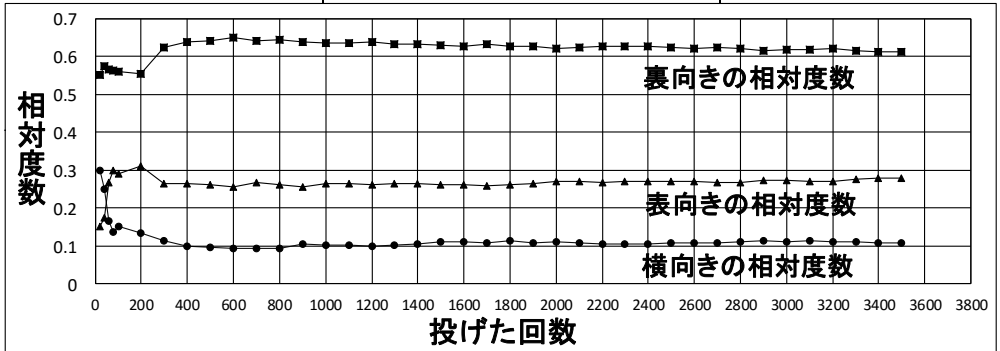
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
データの分布	<b>【ヒストグラムや相対度数の必要性和意味】</b>		
	・ヒストグラムや相対度数、範囲、累積度数などの必要性和意味を理解している。	・ヒストグラムなどを基にして、データの分布の傾向を読み取り表現することができる。	・ヒストグラムや相対度数などのよさに気付いて粘り強く考えようとしている。
	・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やヒストグラムなどに整理することができる。	・相対度数や累積相対度数を基にして、データの分布の傾向を読み取り表現することができる。	
不確定な事象の起こりやすさ	<b>【データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること】</b>		
	・ヒストグラムや代表値、相対度数などを用いて、問題を解決する方法について理解している。	・目的に応じたデータを収集する方法や整理する方法について考察し表現することができる。	・データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度を養いたい。
	・問題を解決するために、ヒストグラムや代表値、相対度数などを用いてデータを整理することができる。	・整理したデータの分布の傾向を読み取り、見いだした結論や過程を批判的に考察し判断することができる。	・データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度を養いたい。
	・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。	・多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。	・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率のよさに気付いて粘り強く考えようとしている。
	・多数回の試行の結果から、相対度数を計算し確率を求めることができる。		・不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度を養いたい。

【単元を貫く問い】不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り判断できるだろうか？

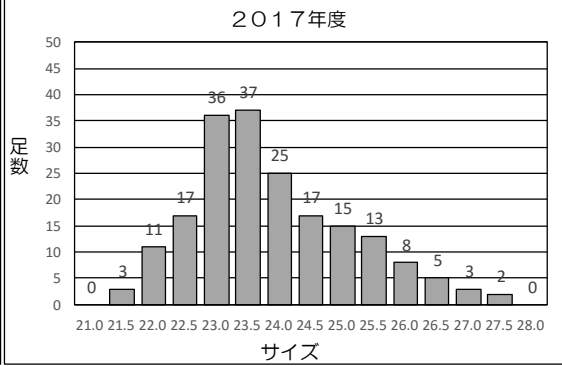
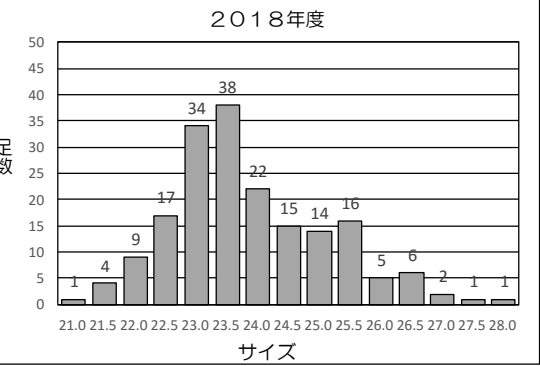
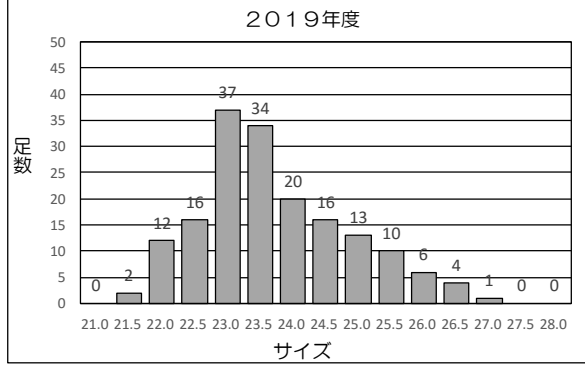
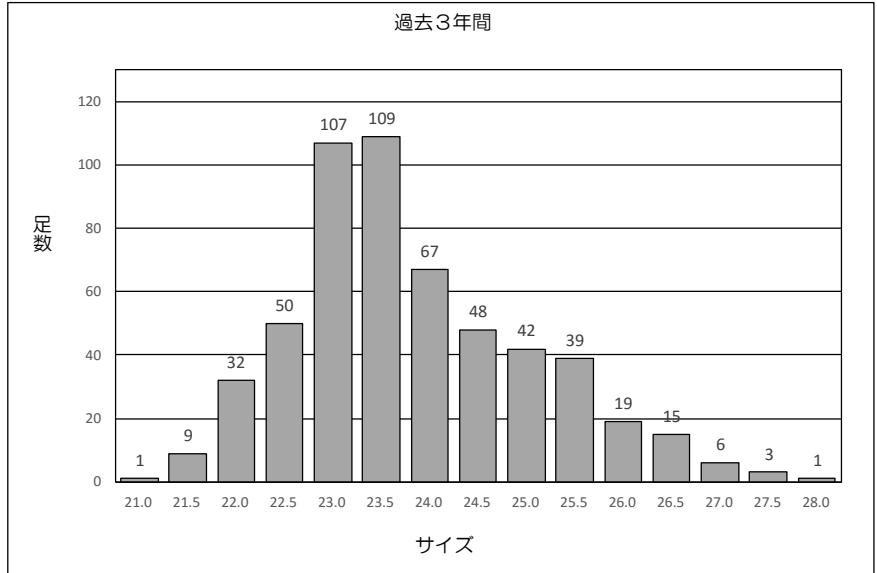
数学的活動	学習内容	評価規準	見方・考え方を働かせている生徒の姿																																																								
<p>ヒストグラムを用いてデータを整理し、ヒストグラムや度数分布表・代表値等からデータの傾向を読み取り、どちらの結果がよいか比較し、批判的に考察し、判断する活動</p>	<p><b>1. データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。【5時間】</b>  <b>◆2つの資料を整理し、比較するためにはどうすればよいだろうか。【3時間】</b>  <b>用語：度数分布表・ヒストグラム・代表値・階級・階級の幅・範囲・累積度数</b></p> <p>2月1日(1週間後)に行われる大縄跳び大会に参加します。                      5分間で連続して跳んだ最高回数をクラスの記録とします。                      ゆうとさんのクラスは32人で、優勝をめざして、休み時間や放課後を使って練習をしています。                      2列と3列の2つの並び方で、5分ずつに区切って練習をし、右の表はそのときの記録をまとめたものです。                      どちらの方法で跳ぶのがよいだろうか？</p> <table border="1" data-bbox="1129 320 1953 697"> <thead> <tr> <th></th> <th>並び方</th> <th>記録(回)</th> <th></th> <th>並び方</th> <th>記録(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1日目</td> <td>2列</td> <td>18 11 19</td> <td rowspan="2">6日目</td> <td>2列</td> <td>22 23 27</td> </tr> <tr> <td>3列</td> <td>16 20 19</td> <td>3列</td> <td>25 39 26</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2日目</td> <td>2列</td> <td>23 12 26</td> <td rowspan="2">7日目</td> <td>2列</td> <td>31 26 30</td> </tr> <tr> <td>3列</td> <td>12 14 26</td> <td>3列</td> <td>31 26 23</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3日目</td> <td>2列</td> <td>24 17 20</td> <td rowspan="2">8日目</td> <td>2列</td> <td>29 24 28</td> </tr> <tr> <td>3列</td> <td>13 34 18</td> <td>3列</td> <td>34 23 28</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4日目</td> <td>2列</td> <td>22 30 21</td> <td rowspan="2">9日目</td> <td>2列</td> <td>34 30 33</td> </tr> <tr> <td>3列</td> <td>37 20 15</td> <td>3列</td> <td>17 33 22</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5日目</td> <td>2列</td> <td>16 28 24</td> <td rowspan="2">10日目</td> <td>2列</td> <td>31 36 35</td> </tr> <tr> <td>3列</td> <td>30 36 24</td> <td>3列</td> <td>34 21 34</td> </tr> </tbody> </table>		並び方	記録(回)		並び方	記録(回)	1日目	2列	18 11 19	6日目	2列	22 23 27	3列	16 20 19	3列	25 39 26	2日目	2列	23 12 26	7日目	2列	31 26 30	3列	12 14 26	3列	31 26 23	3日目	2列	24 17 20	8日目	2列	29 24 28	3列	13 34 18	3列	34 23 28	4日目	2列	22 30 21	9日目	2列	34 30 33	3列	37 20 15	3列	17 33 22	5日目	2列	16 28 24	10日目	2列	31 36 35	3列	30 36 24	3列	34 21 34		
	並び方	記録(回)		並び方	記録(回)																																																						
1日目	2列	18 11 19	6日目	2列	22 23 27																																																						
	3列	16 20 19		3列	25 39 26																																																						
2日目	2列	23 12 26	7日目	2列	31 26 30																																																						
	3列	12 14 26		3列	31 26 23																																																						
3日目	2列	24 17 20	8日目	2列	29 24 28																																																						
	3列	13 34 18		3列	34 23 28																																																						
4日目	2列	22 30 21	9日目	2列	34 30 33																																																						
	3列	37 20 15		3列	17 33 22																																																						
5日目	2列	16 28 24	10日目	2列	31 36 35																																																						
	3列	30 36 24		3列	34 21 34																																																						
<p><b>Pro</b> 「A中学校の生徒は大縄跳び大会の校内選考に向けて、3学期から練習を始めました。2列で跳ぶのと3列で跳ぶのとではどちらがよりよい結果が出せるでしょうか？」  <b>Pla</b> 「どんなデータがあれば分かるかな。」                      「練習結果が分かればそこから判断できそうだな。」                      「30回分の練習結果をみてみよう。」                      「練習結果の平均が知りたい。」→平均はどちらも同じ値。                      「だいたい平均値くらい跳べると考えていいのかな?」「平均値だけで比べていいのかな?」                      「2列の方は平均値くらいのデータが多いけど、3列の方はデータが散らばっている。」                      「平均以外の代表値やヒストグラム(幅10)にまとめると判断できるのではないかな?」  <b>D</b> 2列で跳ぶときと3列で跳ぶときの結果のデータを提示する。  <b>A</b> 「代表値の値を比べると3列の方がよさそうだけど…ヒストグラムではあまり変わらないなあ。」                      「階級の幅をもう少し小さくすると、傾向がさらに見やすくなるのでは?」                      「階級の幅を3や5にしてまとめるとどうだろうか?」                      階級の幅を小さくしてヒストグラムをまとめる。(幅は生徒に任せる。)                      「階級の幅を3くらいにして比較すると判断しやすくなるぞ。」                      「階級の幅を小さくしすぎても見づらくなるなあ。」                      「階級の幅を変えたらヒストグラムの形状が変化するな。」  <b>C</b> 根拠を基に結論を述べる                      「代表値を比較しても回数が多いのは3列で、ヒストグラムを見ても山が右寄りになっているので3列跳びの方がよいのではないかな?」                      ※2列跳びは日付が後半になるほど結果がよいように見えるけど…  <b>Pla</b> 「だんだんうまくなってきたので最初の記録はあまり意味ないな。最近の記録で比較してみたいのでは?」  <b>D</b> データを見直す。  <b>A</b> データの特徴に着目し、直近の3日間のデータでヒストグラムや代表値を求める。                      時系列での折れ線グラフを作成する。  <b>C</b> 根拠を基に結論を述べる                      「直近の結果をみると2列の方がヒストグラムを見ても代表値を比較してもよい結果が出たので練習して結果がよくなっていったといえる。そのため、2列で跳ぶ方がよいと思う。」                      問題解決の過程を振り返る                      ・平均値だけで結果を判断するのはふさわしくない。また、同じデータでも着目する代表値によって判断が違ってくる。                      ・ヒストグラムに表すと平均値を調べただけでは分からない全体の散らばりの様子がわかるな。                      ・階級の幅や縦軸のメモリの大きさが異なればヒストグラムの見え方も異なる場合がある。                      ・直近の3日間のみデータに着目したように、必要に応じてデータの収集を工夫することも大切である。収集するデータによって判断が変わってくる。                      ・データの特徴(成長の変化)に着目し、直近のデータに着目するアイデアは説得力があった。                      ・ヒストグラムや代表値には時間などのひとつひとつの情報も消えてしまう可能性があるのを使うときには注意が必要である。</p>	<p><b>◆ 総度数の異なる2つの資料を比較するにはどうすればよいだろうか。【2時間】</b>  <b>用語：相対度数・累積相対度数</b></p> <p>ゆうとさんのクラスは2列跳びで跳んだところみごと校内選考で選ばれました。そのため本戦の大縄跳び大会に向けてさらに練習することにしました。前回同様5分間で連続して跳んだ最高回数をクラスの記録とします。練習をする中でさらによい結果を出すために列は2列のままで、「今までどおり」に並ぶ跳び方と「女子が真ん中」に集まる跳び方と両方で練習しました。右の表は両方の跳び方で跳んだときの資料を度数分布表に整理したものです。どちらの方法で跳ぶのがよいと考えますか?</p> <table border="1" data-bbox="1486 2018 1921 2359"> <thead> <tr> <th rowspan="2">階級</th> <th colspan="2">度数</th> </tr> <tr> <th>今までどおり</th> <th>女子が真ん中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>以上 未満</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>25 ~ 30</td> <td>11</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>30 ~ 35</td> <td>18</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>35 ~ 40</td> <td>22</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>40 ~ 45</td> <td>24</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>45 ~ 50</td> <td>22</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>50 ~ 55</td> <td>20</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>55 ~ 60</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>126</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table>	階級	度数		今までどおり	女子が真ん中	以上 未満			25 ~ 30	11	6	30 ~ 35	18	7	35 ~ 40	22	13	40 ~ 45	24	17	45 ~ 50	22	18	50 ~ 55	20	16	55 ~ 60	9	7	計	126	84	<p>○ヒストグラムや範囲などの必要性と意味を理解している。【知】                      ○ヒストグラムや代表値などを用いて、問題を解決する方法について理解している。【知】                      ○整理したデータの分布の傾向を読み取り、見いだした結論や過程を批判的に考察し判断することができる。【思】                      ○ヒストグラムなどを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。【主】</p> <p>・データの特徴がよく表れるように適当な階級の幅を設定する必要があるな。                      ・ヒストグラムの条件を変えることで最頻値や中央値を含む階級が変化することがあるな。                      ・階級の幅や目盛りを変化させることでごまかしたり誇張したりすることができるな。                      ・目的に応じてデータを広げたり狭めたり取り出したりすることで説得のある説明をすることができるな。                      ・ヒストグラムや代表値は時間やひとつひとつのデータの情報が消えるデメリットもあるな。</p>	<p>○ヒストグラムや相対度数などのよさに気付いて粘り強く考えようとしている。【主】                      ○相対度数や累積相対度数を基にして、データの分布の傾向を読み取り表現することができる。【思】</p> <p>・割合の考えを用いると、大きさの異なる集団のデータの傾向を比較できるぞ。</p>																								
階級	度数																																																										
	今までどおり	女子が真ん中																																																									
以上 未満																																																											
25 ~ 30	11	6																																																									
30 ~ 35	18	7																																																									
35 ~ 40	22	13																																																									
40 ~ 45	24	17																																																									
45 ~ 50	22	18																																																									
50 ~ 55	20	16																																																									
55 ~ 60	9	7																																																									
計	126	84																																																									
	<p><b>Pro</b> 「見事校内選考に選ばれ、市の大会に参加することとなった。次の大会に向けて練習して少しでもよい結果を出したいとさらに練習を重ねている。2列で練習を行っていたが、さらに結果をよくするため並び方を工夫することにした。1日5回の練習のうち3回は「今までどおり」の跳び方、残りの2回は「女子が真ん中」に集まる跳び方で練習した。本番まであと1週間どちらの跳び方がよいだろうか?」  <b>Pla</b> 「前回と同じようにデータを直近の5日や7日で比べてみたらどうか?」  <b>D</b> データをみる。  <b>A</b> 「ヒストグラムを作成しても、比較する回数の合計が違うから見えにくいなあ。」                      「度数の合計が違うからそのまま比べることができないな。」                      「割合で比較することができないかな。」 ・割合(相対度数)  <b>C</b> 結論を述べる→「女子が真ん中にかたまると跳び方の方が○○回以上跳べる割合が高いので(累積相対度数) 女子が真ん中にかたまるとの方がよいと判断できる。」                      問題解決の過程を振り返る                      度数の合計が異なる時も相対度数を求めることで比較することができる。</p>																																																										

【単元を貫く問い】 不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り判断できるだろうか？

数学的活動	学習内容	評価規準	見方・考え方を働かせている生徒の姿
多数回の試行のデータを収集・整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えて、説明し伝え合う活動	<p><b>2 多数回の試行の結果から、起こりやすさの傾向を捉え説明する。【2時間】</b></p> <p>◆ 多数回の試行から、傾向を読み取るにはどうすればよいだろうか。(2時間)</p> <p>用語：相対度数・確率</p> <p>Pro 「ペットボトルキャップを投げたとき、表向きになる場合と裏向きになる場合ではどちらが起こりやすいだろうか？」 「裏が多くなりそう。」「横向きになる場合もある。」</p> <p>Pla① 「キャップを投げて確かめてみよう」 「どのくらい投げる?」「10回」「10回では偏りがあるからだめ。」</p> <p>D 1000回投げたときのデータを集める</p> <p>A 「どちらが多くでるか。」「裏が多い」「それぞれの割合はどのくらい?」</p> <p>C 結論を述べる→「裏が出る割合が大きい。」 「10回投げたときと1000回投げた時の相対度数は違うけど、起こりやすさが違うのかな。」</p> <p>Pla② 「起こりやすさの傾向を読み取ろう。」 「50回、100回、...のときの割合はどうなっているかな。」</p> <p>D 50回ごとの相対度数を求める。</p> <p>A 「相対度数を折れ線グラフで表してみよう。」 「投げる回数が大きくなると、相対度数がある値に近づいていく。」</p> <p>C 結論を述べる。「裏になる確率は表になる確率より高いので裏の方が出やすい。」</p> <p>問題解決の過程を振り返る ものごとの起こりやすさ(確率)を調べるためにはある程度たくさんの回数の実験が必要になってくる。</p>	<p>○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率のよさに気付いて粘り強く考えようとしている。【主】</p> <p>○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。【知】</p> <p>○多数回の試行の結果から、相対度数を計算し確率を求めることができる。【知】</p>	<p>・割合を用いると、多数回の試行の起こりやすさを予測することができるのだな。</p>



2019年度		2018年度		2017年度		過去3年間	
サイズ	個数	サイズ	個数	サイズ	個数	サイズ	個数
21.0	0	21.0	1	21.0	0	21.0	1
21.5	2	21.5	4	21.5	3	21.5	9
22.0	12	22.0	9	22.0	11	22.0	32
22.5	16	22.5	17	22.5	17	22.5	50
23.0	37	23.0	34	23.0	36	23.0	107
23.5	34	23.5	38	23.5	37	23.5	109
24.0	20	24.0	22	24.0	25	24.0	67
24.5	16	24.5	15	24.5	17	24.5	48
25.0	13	25.0	14	25.0	15	25.0	42
25.5	10	25.5	16	25.5	13	25.5	39
26.0	6	26.0	5	26.0	8	26.0	19
26.5	4	26.5	6	26.5	5	26.5	15
27.0	1	27.0	2	27.0	3	27.0	6
27.5	0	27.5	1	27.5	2	27.5	3
28.0	0	28.0	1	28.0	0	28.0	1
合計	171	合計	185	合計	192	合計	548



<p>Pro 「来年度の新入生の物品販売に向けて、売店で上履きを仕入れる。来年度の新入生のために各サイズの上履きをそれぞれ何足入荷すればよいか。来年度の新入生は約210人ということは分かっている。」</p> <p>Pla 「どうやったら解決できるかな。」 「新入生が今は持っている靴のサイズを知りたい。」→「そんなデータはないな。」 「過去のデータから予測することはできないかな。」 「今年度の売れた上履きの傾向はどうだったのかな。」</p> <p>D データをみる。 「でも、今年度のデータだけで判断してもいいの?」 「3年分くらいのデータがないかな。」 「1年ごとにデータを見るとだいたい同じ傾向にあるね。」 「このことから来年度も同じ傾向だということが予想できそうだ。」</p> <p>A 3年間分のデータを基に棒グラフに表したり相対度数を求める。</p> <p>C 結論を述べる→ それぞれの上履きのサイズの足数を相対度数を基に求める。</p> <p>問題解決の過程を振り返る ・来年度の新入生は身長の高い人が多いから大きいサイズが多くなるんじゃないかな? ・新入生が増える可能性もあるから余分に入荷する必要がありそうだな。</p> <p>C 最終的な結論を述べる。(結果を補正する。)</p> <p>問題解決の過程を振り返る ・過去のデータから毎年ほぼ同じ傾向がみられるので、起こりやすさの傾向を予測するために相対度数を確率とみなし、どのサイズを何足入荷すればよいかを判断することができた。 ・でも、「必ず~になる。」とはいきれない。</p>	<p>○多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。【思】</p> <p>○不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしていたりしている。【主】</p>	<p>・相対度数を確率とみなして考えることで、起こりやすさを予測することができるのだな。</p>
--	--	--

【目指す子どもの姿】 統計的な問題解決の方法を用いるとともに、日常生活や社会生活、学習の場面等において問題を発見し、目的に応じて必要なデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を捉え説明することができる。また、データの収集方法や分析結果を批判的に考察し判断することができる。